

喜多方市立小中学校適正規模適正配置
保護者・地域意見交換会結果報告書

喜多方市教育委員会

I 保護者意見交換会

1 目 的

小中学校適正規模適正配置に係る基本方針及び実施計画策定の参考とするために、子どもたちにとって望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、小中学生や未就学児の保護者の考え、意見等を把握することを目的として実施した。

2 期 間

平成30年7月25日（水）～8月2日（木）（中学校区ごとに計7回開催）

3 実施方法

保護者意見交換会の実施にあたっては、事前に各小中学校において、PTAの会合など多くの保護者が参集する機会に、保護者による話し合いの場を設けて保護者の意見を取りまとめ、各校の保護者の代表者にそれら意見を持ち寄っていただき、さらに未就学児の保護者の参加も呼びかけて、7つの中学校区ごとに意見交換会を実施した。

4 日程及び会場等

日 時	会 場	対 象 学 区
7月25日(水)19:00～	高郷小学校ランチルーム	高郷中学校区（2校）
7月26日(木)19:00～	第一小学校会議室	第二中学校区（4校）
7月27日(金)19:00～	会北中学校会議室	会北中学校区（3校）
7月30日(月)19:00～	塩川中学校プレイホール	塩川中学校区（5校）
7月31日(火)19:00～	第二小学校会議室	第一中学校区（4校）
8月1日(水)19:00～	山都中学校多目的ホール	山都中学校区（2校）
8月2日(木)19:00～	関柴小学校会議室	第三中学校区（4校）

5 出席した教育委員会事務局職員

教育長	大 場 健 哉
教育部長	江 花 一 治
教育部参事	佐 藤 健 志
学校教育課長	坂 口 伸
学校教育課主幹兼管理主事	五十嵐 博 也
学校教育課主幹・指導主事	武 藤 幸 意
学校教育課長補佐・指導主事	佐 藤 毅
学校教育課長補佐・指導主事	中 村 豊 子
学校教育課長補佐	瓜 生 昭 彦

6 参加者

(単位：人)

区分	参加者数	内 訳				
		小学校 保護者	中学校 保護者	未就学児 保護者	教職員	教育委員
高郷中学校区	11	3	2	1	3	2
第二中学校区	15	7	2	1	5	
会北中学校区	13	3	1	3	6	
塩川中学校区	12	5	1	0	5	1
第一中学校区	10	5	2	0	3	
山都中学校区	11	1	5	0	4	1
第三中学校区	19	10	3	1	5	
合計	91	34	16	6	31	4

(教育委員の人数は、延べ人数)

7 総括

保護者意見交換会では、望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、小中学生や未就学児の保護者の立場から意見が出された。総括すると、「(1)少人数教育の充実と現状の維持」「(2)新たな学校スタイル」「(3)子どもの意見の尊重」「(4)地域との関わり」「(5)部活動の多様性」「(6)その他」に大別することができた。

それぞれの代表的な意見を整理すると、次のとおりである。

(1) 少人数教育の充実と現状の維持

- ① 今のままでできることはないのか。例えば、体育の時間は他の学年と一緒にやるとか、学年で、1～2人しかいない時は、その学年は初めから別の学校に行くとかの方法を考えてほしい。
- ② 自分が学んだ学び舎がなくなるのは寂しい。地域の人たちに意見を聞いて、はたして意見がまとまるのか。大人数の中での競争心は必要だが、その分、いじめも心配である。
- ③ 小規模校で、いろいろな経験をさせてもらっている。生徒会やピアノ伴奏などで一人一人が活躍できる場があるが、一方では、いろいろな役割が一人に集中してしまう課題もある。

(2) 新たな学校スタイル

- ① 西会津町で行った統廃合はよかったと思う。大規模な統合も検討すべきである。
- ② 大規模な統合も検討すべき。義務教育学校も検討してほしい。
- ③ こども園から中学校まで一つの建物の学校ができるとよい。
- ④ 親の立場としては、幼小中一貫であれば楽に感じる。子どもたちも活動の幅が広がると思う。

(3) 子どもの意見の尊重

- ① 適正規模適正配置について大人だけで話し合っている。この問題は子どもに判断はできないと思う。まずは、お互いが他の学校との交流学習を体験し、その後、子どもの意見を募ってみてはどうかと思う。

- ② 地域の保護者、大人ばかりで考えるのではなく、子どもたちが影響を受けるので、子どもたちの意見を取り上げるべきである。
- ③ 子どもの意見も聞きたい。特に、中学校の部活動の事もあるので、入りたい部活動などを聞いてみてはどうかと思う。自分の考えだけでは、どうしたらよいか分からない。
- ④ 子どもの目線で、子どもを交えて、子どもの意見を吸い上げてほしい。

(4) 地域との関わり

- ① 子どもが関わって地域行事が成り立っている事が多い。学校がなくなると、行事に参加できるのか不安である。
- ② 学校が無くなると、祭りや運動会、あいさつ運動などの地域との触れ合いがなくなるのが寂しい。
- ③ 平成 15 年頃は児童数が 600～700 人いたが、現在は 370 人程度である。市街地でも行政区によっては、子供会育成会が存続できないようなところもでてきている。いろいろな活動に支障をきたしている。
- ④ 堂島小学校は地域との密着度が高いので、今の体制がベスト。もし学校がなくなったらコミュニティがなくなるのが心配である。
- ⑤ 地域の学校がなくなるのは、誰もがいやなことだ。しかし、そうせざるを得ない状況にある。はっきり言って、どちらがいいか分からない。

(5) 部活動の多様性

- ① 第三中学校では廃部になった部活動もある。部活動の選択肢が少なく、子どもたちがやりたいものが見つけられない。部活動のために他の学校に通っている子どももいる。学校の枠を越えて部活動のチーム編成ができるようにしてほしい。
- ② 小さい学校は、部活動が増えない。子どもたちにとってメリットがない。自分のやりたい部活動がないという声も聞く。
- ③ みんなで活動する文化部や運動部を大切にしたいが、生徒数が少なくて、それらの部活動ができなくなっている。
- ④ 小中 9 年間で学ぶことも考えられる。5、6 年生から部活に参加することも考えられる。

(6) その他

- ① 学区を再編し、大規模校から小規模校に通うことも検討してみてもどうか。
- ② 学区を取り払い、自由に大規模、小規模校を選べるようにしてほしい。子どもの教育環境を保護者が選べるようにしてほしい。
- ③ 取組みにスピード感がない。意見を聞くのもよいが、行政主導で行ってもよいのではないかなと思う。
- ④ 小さい学校なりのよさがある。しかし「こうなりました。」と決めてもらえれば、そうするしかないのでは、それに従う。
- ⑤ 子どもの小学校入学と同時に実家に戻ろうと考えている人も多いと思う。しかし、地元の小

学校が無かったら地元に戻るとは思えない。

- ⑥ 大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがあって決められないが、学校がなくなるのは寂しい。

Ⅱ 地域意見交換会

1 目 的

小中学校適正規模適正配置に係る基本方針及び実施計画策定の参考とするために、子どもたちにとって望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方等について、市内小学校区ごとの地域住民の考え、意見等を把握することを目的として実施した。

2 期 間

平成30年8月6日（月）～8月30日（木）（小学校区ごとに計16回開催）

3 実施方法

地域意見交換会は、全ての小学校区ごとの地域住民を対象に、全17小学校区で実施することとした。実施にあたり、各行政区長には直接文書にて案内するとともに、案内文書の全戸回覧、市ホームページへの掲載等により、地域住民に対し参加を呼びかけた。

なお、熱塩小学校区、加納小学校区は同時開催としたため、計16回の地域意見交換会を実施した。

4 日程及び会場等

日 時	会 場	対 象 学 区
8月 6日(月)19:00～	高郷総合支所	高郷小学校区
8月 7日(火)19:00～	山都開発センター	山都小学校区
8月 8日(水)19:00～	熱塩加納会館	熱塩・加納小学校区
8月 9日(木)19:00～	松山公民館	松山小学校区
8月10日(金)19:00～	堂島地区公民館	堂島小学校区
8月16日(木)19:00～	塩川公民館	塩川小学校区
8月17日(金)19:00～	慶徳ふれあい館	慶徳小学校区
8月20日(月)19:00～	駒形地区公民館	駒形小学校区
8月21日(火)19:00～	厚生会館	第一小学校区
8月22日(水)19:00～	市役所大会議室	第二小学校区
8月23日(木)19:00～	姥堂地区公民館	姥堂小学校区
8月24日(金)19:00～	上三宮遊樹館	上三宮小学校区
8月27日(月)19:00～	岩月交遊館	第三小学校区
8月28日(火)19:00～	熊倉公民館	熊倉小学校区
8月29日(水)19:00～	関柴公民館	関柴小学校区
8月30日(木)19:00～	豊川公民館	豊川小学校区

5 出席した教育委員会事務局職員（2班に分けて出席）

教育長	大 場 健 哉
教育部長	江 花 一 治
教育部参事	佐 藤 健 志
学校教育課長	坂 口 伸
学校教育課主幹兼管理主事	五十嵐 博 也

学校教育課主幹・指導主事
 学校教育課長補佐・指導主事
 学校教育課長補佐・指導主事
 学校教育課長補佐

武 藤 幸 意
 佐 藤 毅
 中 村 豊 子
 瓜 生 昭 彦

6 参加者

(単位:人)

区分	参加者数	内訳					
		地域住民	未就学保護者	小学校保護者	中学校保護者	学校関係者等	教育委員
高郷総合支所	13	11					2
山都開発センター	5	3					2
熱塩加納会館	8	7					1
松山公民館	9	7	1				1
堂島地区公民館	6	5	1				
塩川公民館	3	2					1
慶徳ふれあい館	4	3			1		
駒形地区公民館	3	2		1			
厚生会館	3	3					
市役所大会議室	3	2		1			
姥堂地区公民館	8	7				1	
上三宮遊樹館	5	4				1	
岩月交遊館	5	4		1			
熊倉公民館	9	9					
関柴公民館	4	4					
豊川公民館	7	7					
合計	95	80	2	3	1	2	7

(教育委員の人数は、延べ人数)

7 総括

地域意見交換会では、望ましい学習環境や将来の小中学校の在り方について、地域住民として、地域と学校の関係を中心とした意見が多く出された。総括すると、「(1)地域と学校の在り方」「(2)少人数教育の充実と現状の維持」「(3)小中一貫教育の実施」「(4)部活動の多様性」「(5)学区の見直し」「(6)その他」に大別することができた。

それぞれの代表的な意見を整理すると、次のとおりである。

(1) 地域と学校の在り方

- ① 松山町の多くの児童が第一小学校に通っている。松山町のまちづくりを進める上では、同じ学校で学んでほしい。
- ② 10年後、20年後の地域のあり方を考えて、保護者の意見を大きく取り上げてほしい。
- ③ 地区住民としては、学校があつて地域があると思っているので、残してほしい。学区外通学が許可されたとはいえ、他校に通うようになったことで、地域に子どもが少なくなっている。
- ④ 岩月は統合してから何年もたっていないので、このままでもよいと思っている。

- ⑤ 地区に学区が2つあってはやりにくい。
- ⑥ 大切なのは、地域のコミュニティだと思う。今後しばらくは、児童数がそれほど変わらないのであれば、現状を維持していただき、その中で教育効果を高めていただきたい。

(2) 少人数教育の充実と現状の維持

- ① 自分は、複式学級で学んできて、特に問題はなかったので、少人数でよいのではないかなと思う。
- ② 人間の教育は、競争だけではなく、一人一人の特性を伸ばすこと。少人数のほうが、いい面がたくさんある。
- ③ 人数が少ない方が、より優秀な子が育つということもある。

(3) 小中一貫教育の実施

- ① 会北中学校区は、小学校を1校にし、地域が維持できるような環境を作り出していくべきではないか。幼小中一貫教育が良いと思う。
- ② この現状では、統合は必須だと思う。中学校に小学校の併設が良いと思う。統合しても、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。
- ③ 学校間のネットワーキング(ネットワークにより互いに連絡し合うこと)を進め、地域との関わり、学校間との関わりを進める。

(4) 部活動の多様性

- ① 地域の学校はそのまま、サッカー部や剣道部などの部活動を市全体で行うことができるかどうか考えるべきである。また、教職員の多忙化解消と併せて考えることが大切である。
- ② それぞれの中学校ごとに、1つの部活動を強化するなど、部活動に特色をもたせる考え方もいいのではないかなと思う。
- ③ 統合するなら、部活動の指導者として地域の人材を活用するなど、地域との関わりを積極的にすすめてほしい。部活動などでも他の学校と合同で活動していくのもよいのではないかなと思う。

(5) 学区の見直し

- ① 統廃合に賛成。中学校は将来を見据えて広い地区で考え、計画が遅くならないようにしてほしい。
- ② 加納小学校と熱塩小学校が一緒になるのがよいと考える。これから何年間後かに、また同じ問題になるのであれば、もっと広い範囲での統合も考える必要があると思う。
- ③ 塩川小学校の児童の一部を堂島小学校、姥堂小学校、駒形小学校それぞれの小学校に振り分けてはどうか。学区をもとに戻すという考えもある。

(6) その他

- ① 障がいを持つ児童生徒が通常の学校の児童生徒とふれ合ったり、交流したりすることも、これからの学校の在り方の1つであると考えます。
- ② 山都町には耶麻農業高校があるなど、地域には農業について連携できる組織がある。学校教育について、地域をあげて協力していくことが大切であると考えます。

- ③ ある町では、小学校をこの地域に置くから、こども園は別の地域に置くといったギブアンドテイクをしていると聞く。ここもそのようなことを考えてはどうか。

喜多方市立小中学校適正規模適正配置
保護者・地域意見交換会報告書
付属資料
～各会場での意見等～

喜多方市教育委員会

I 保護者意見交換会

第1回保護者意見交換会（高郷中学校区）

・日 時 平成30年7月25日（水） 19：00～

・場 所 喜多方市立高郷小学校ランチルーム

・参加者 11名

・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 保育所（こども園）から中学校まで一つの建物の学校ができるとよい。
- ② 子どもの小学校入学と同時に実家に戻ろうとした時、地元小学校が無かったら、地元には戻らない。
- ③ 学校があれば地元に戻るが、学校がなくなってしまうと戻らないと思う。
- ④ 小中学校は地域にとってとても大切な場所である。
- ⑤ 親の立場でも幼、小中一貫は楽に感じる。活動の幅が広がる。地域の特色を生かすという学校のメリットを言われるが、どちらかという親のメリットである。
- ⑥ 小さい学校は、部活動が増えない。子どもたちにとってメリットがない。
- ⑦ 自分のやりたい部活がないという声も聞く。
- ⑧ 高郷こども園と山都こども園合同で社会見学に行ったが、お互いに刺激があって楽しかったとうことである。
- ⑨ 幼小中一貫校をつくっても、この人数（少人数）だけである。子どもの数を増やすべき。
- ⑩ 通学のことを心配している。山都や喜多方と統合したら片道1時間かかる。部活動どころではないと思う。
- ⑪ 通学時間が増えたら、家庭学習がおろそかになって学力低下が懸念される。例えば西会津町に通わせることはできないものか考える。
- ⑫ 今の子どもが親になった時のことも考えて、施策を考えてほしい。

(2) 子どもの意見の尊重

- ① 地域の保護者、大人ばかりで考えるのではなく、実際、子どもたちが影響を受けるので、子どもたちの意見を取り上げるべき。
- ② 子どもたちは大人が決めたことに流されてしまう。子どもたちの意見を聞くべき。

(3) 分らない・決められない

- ① 高郷小では半分が統合した方がよいという意見、あと半分はわからないという意見である。
- ② 基本方針ができれば合併に近づいている実感がでるが、現在は想像できない状態である。

(4) 疑問・要望

- ① 統合した場合の児童生徒数の目安を示してほしい。山都と高郷を統合しても、80人くらいにしかない。何人になればいいのか知りたい。

(5) その他（現状での改善要望等）

- ① 山都はスクールバスがでているが、高郷地区の坂下よりの地区は冬のバス代を負担しなくてはならない。スクールバスの在り方も検討してほしい。
- ② 小学生はスクールバスがあるが、中学生についても検討してほしい。

第2回保護者意見交換会（第二中学校区）

・日 時 平成30年7月26日（木） 19：00～

・場 所 喜多方市立第一小学校会議室

・参加者 15名

・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 平成15年頃は児童数が600～700人いたが、現在は370人程度である。行政区によっては、子供会育成会がなくなるかもしれないところもでてきている。いろいろな活動に支障をきたしている。
- ② 校舎が古い。エアコンもないので、勉強するにも支障をきたしている。西会津の統合はよかったと思う。大規模な統合も検討すべき。
- ③ 松山小としては、上三宮小との統合が考えられるが、どうせ実施するなら喜多方市全体を捉えて実施してほしい。
- ④ 時期的、早め早めに進めてほしい。いつまでも「どうしますか？」では決まらないと思う。
- ⑤ 例えばリレーの選手6人ほしい時、学年で7人しかいない女子で、一人だけ選手にならないことがある。子どもが少ないと、このようなことが起こる。
- ⑥ たくさんの人数の中から友だちが選べるのもいいと思う。今後のことを考えると、子どもにとって選択肢があった方がいい。
- ⑦ 大規模な統合も検討すべき。義務教育学校も検討してほしい。
- ⑧ 子ども側にたつと、上三宮小の学年で2名はかわいそうである。大人数の中で、いろいろな意見を聞くことも大事だと思う。
- ⑨ 大きな学校から小さな学校への部分統合（シャッフル）など、逆転の発想も必要ではないかと思う。
- ⑩ 三小が以前、統合を行ったが、果たしてよかったのだろうか。現在は、三小も人数が少なくなってきており、また統合が必要になるような二の舞にならないようにしてほしい。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校の良さ、現状の中での工夫等）

- ① 遠くから通うことになる地区の子どもを考えると部活どころではない。近くに学校があった方がよい。
- ② 上三宮小は人数が少ないなりにまとまっている学校である。PTA活動も100%の参加が得られている。
- ③ 自分が上三宮小で過ごしてから、大きな二中に進学して気後れした思い出がある。
- ④ 今のままでできることはないのか。例えば、体育の時間は他学年と一緒にやるとか、学年1～2人の時は、始めから別の学校にいくとかの方法を考えてほしい。

(3) 分らない・決められない

- ① 個人的には残してほしい。しかし、子どものことを考えると統合はやむをえない。統合してよかったのかどうなのかという情報があればありがたい。
- ② 少人数だと親同士も仲良くなるが、PTAの役員としての負担も大きい。

(4) 地域文化との関わり

- ① 祭り囃子の練習など、かつては1地区で行っていたことを今では4地区合同で行っている。地域文化が残せない現状である。
- ② みんなで活動する文化や運動を大切にしたいが、チームスポーツができなくなっている。
- ③ 新興住宅地がある地区は増えているが、それ以外は減っているのが現状。都市計画に合わせて行うのがよいと思う。
- ④ 小中9年間で学ぶことも考えられる。5、6年生から部活に参加することも考えられる。

(5) その他（現状での改善要望等）

- ① まず学校に行くと、あんなに暑いところで勉強していることに驚いている。

第3回保護者意見交換会（会北中学校区）

・日 時 平成30年7月27日（金） 19：00～

・場 所 喜多方市立会北中学校会議室

・参加者 13名

・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 去年、東京から来た。すぐに統合してほしい。競争社会で生活してほしいと思う。
- ② 仮にどこどこを統合するという案を出してもらおうと意見が出るかもしれない。学区を越えた大きな統合もよいと思う。
- ③ できれば早急に統合してほしい。自分が子どもの頃はクラス替えもあり、部活動も自由に決めることができた。学力も心配である。人数が少ないと競うことが少なくなる。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校の良さ、現状の中での工夫等）

- ① スクールバスが出て、通学で負担になるので現状のままでよいと思う。しかし、自分がやりたい部活動ができないことを考えると、生徒の数が増えた方がよい。人数が増えると活動の場が少なくなる。生徒の数が多ければ多いほど、グループが分かれて問題も出てくると思う。
- ② 自分が学んだ学び舎がなくなるのは寂しい。地域の人たちに意見を聞いた時、意見がまとまるのか。競争は必要だが、いじめも心配である。

(3) 分からない・決められない

- ① 必ずしも小さい学校が良くないということではない。しかし、最低限のラインはあると思う。自転車や歩いて通うのがベストだが、体力的な問題もある。
- ② 祭りや運動会、あいさつ運動などの地域の方との触れ合いがなくなるのは寂しい。
- ③ 学校を支えてくださっている地元の方々の意見を聞く必要がある。
- ④ 今はどちらともいえない。しかし、小規模校同士だったらよいが、いきなり大きな学校だったら、いじめ等が不安である。
- ⑤ 子どもの意見も聞きたい。中学校では部活動の事もあるので、どうしたらよいか分からない。
- ⑥ 10年前に移住してきた。今の子ども達が、卒業した先輩たちの意見を聞くのも良いのではないと思う。
- ⑦ メリット、デメリットがあつて決められない。地域の伝統的な行事等がなくなる。学校がなくなるのは寂しい。

第4回保護者意見交換会（塩川中学校区）

・日 時 平成30年7月30日（月） 19：00～

・場 所 喜多方市立塩川中学校プレイホール

・参加者 12名

・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 各校OBの説得も大変だと思う。新しい学校ができたときのよりよい部分が見えてくれば考えも変わると思う。

(2) 疑問・要望

- ① 堂島小は地域との密着度が高いので、今の体制がベスト。もし学校がなくなったらコミュニティがなくなるのが心配である。
- ② 学区を再編し、大規模校から小規模校に通うことも検討してみてはどうかと思う。
- ③ どこかの成功事例（統廃合について）があるとイメージしやすいと思う。
- ④ 「喜多方の学校で学ばせたい」という学校にしてほしい。

- ⑤ 4年前、幼稚園がなくなる時、「こう決まりましたので、・・・」と、こちらの意見は聞き入れてもらえなかった嫌な思いがある。みんなが納得するように進めてほしいと思う。
- ⑥ スクールバスの不安がある。現実的にきちんと対応してほしい。
- ⑦ 広い喜多方だけに議員の考えもばらばらである。力がある議員の意見で決まってしまうようなことがないようにしてほしい。
- ⑧ これからの保護者の考えが一番であると思う。

(3) その他（現状での改善要望等）

- ① 子どもたちは、中学校に来て知り合いなどがいて仲良くなるのが早い。
- ② 目の前のこども園に通えない現状の方が問題だと思う。
- ③ 歩いている子と歩いていない子では大きな違いになる（子どもの体力、肥満の課題）。統廃合の前に必要な前段階の整備がたくさんある。

第5回保護者意見交換会（第一中学校区）

・日 時 平成30年7月31日（火） 19：00～

・場 所 喜多方市立第二小学校会議室

・参加者 10名

・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 二小学区では、関係のないことだと考えている親もいる。
- ② 議員との懇談会に出席したが、熊倉の行政区長さんの小学校を残したいという熱い気持ち伝わった。しかし、子どもの環境が一番大切である。
- ③ 学級に児童が一人しかいないとなれば、私は他の大きな学校で学ばせたいと思う。

(2) 子どもの意見の尊重

- ① 大人だけで話し合っている。子どもには判断はできないと思うが、せめてお互いの子ども達が学校間で交流すべき。
- ② 大規模校の子どもが小規模の学校に行けば、よいところを見つけることができるかもしれない。子どもの意見なども基本方針に組み込んでいってほしい。

(3) 疑問・要望

- ① 実施計画案はエリアごとの実施計画案であることがわかったが、学区ごとに違いがある。地区によって進捗状況に違いも出るのではないと思う。
- ② 意見がこれだけ分かれているのに、どうやって決めるのか心配である。子どもに教育環境を決定することはできない。保護者の意見が強くはたらくと思う。
- ③ 学区を取り外して、家庭毎に大規模、小規模校を決めることができるようにしてはどうか。子どもの教育環境を保護者が選べるようにしてほしい。

- ④ 計画を進めるのにスピード感がない。エアコンの設置もそうだ。意見を聞いてもらうのはよいがスピード感がない。行政主導で進めても良いのではないかと思う。
- ⑤ 地域行事に子どもが関わって行事が成り立っている。学校がなくなると、行事への参加が不安である。
- ⑥ どの学校も人数が少なくなっている。関柴小は学区が広いが、一部は一中に通っている。学区やエリアも見直すべきである。
- ⑦ 一中学区の中でどのように編成していくのか。熊倉小の意見を見て驚いている。デリケートな問題だと改めて感じた。教育委員会も大変だが、スピード感を持ってほしい。
- ⑧ 一人一人の意見を代弁するのは難しい。一人の反対意見を大切にしていたら話が進まない。一人が反対したら決定しないなどにはしてほしい。
- ⑨ 昔は子どもがたくさんいたが、少子化となった原因を知りたい。企業誘致はうまくいっているのか。喜多方でお金を落としていけるようにすれば、少子化を食い止められると思う。

第6回保護者意見交換会（山都中学校区）

- ・日 時 平成30年8月1日（水） 19：00～
- ・場 所 喜多方市立山都中学校プレイホール
- ・参加者 11名
- ・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 今までとは違う視点から、特化した学校づくり、学校に行く目的のある学校にすべき。通う理由を明確にすると、遠くでも通うことができる。
- ② 高郷と山都が一緒になるのかわからないが、10年に1回の統合では大変である。20～30年続くような統合でないといけないと思う。
- ③ 大規模校でも少人数指導を取り入れるなど、大規模校と小規模校のいいところを取った学校をつくってほしい。
- ④ 9年間、1クラスで一緒に過ごす人間関係はたいへんである。クラス替えがあれば立ち直る機会もできる。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校の良さ、現状の中での工夫等）

- ① 現実問題として、市営住宅の児童生徒数が一番多い。学校がなくなれば、その人たちは他へ出て行くこととなり、ますます過疎化が進む。
- ② 小さい学校なりのよさもある。「こうなりました。」と決めてもらえれば、そうするしかないので、それに従う。

(3) 分からない・決められない

- ① 地域の学校がなくなるのは、誰もがいやだと思う。しかし、そうせざるを得ない状況にあるのも理解できる。はっきり言ってどちらがいいか分からない。

- ② 小規模校で、いろいろな経験をさせてもらっている。生徒会やピアノ伴奏などで活躍できるが、一人に集中してしまう課題もある。

(4) 疑問・要望

- ① 地区ごとに興味・関心が違うのではないと思う。山都地区で興味を持って説明会に来る人は何人いるだろうか疑問である。
- ② 教育委員会が学校の保護者会で説明してほしいと思う。
- ③ こども園の保護者であるが、もっとこども園にも情報を流してほしい。
- ④ 教育委員会として、具体的な案を提示してほしい。
- ⑤ 教育委員会が、何を優先して取り組むのかを出してもよいのではないと思う。
- ⑥ 意見交換会の文書をもらっても、半分以上の人はピンときていない。特に、こども園の保護者は関心がない。

(5) その他（現状での改善要望等）

- ① 小中一貫は、特別教室や校庭などを使う時間が限られてしまうので、あまり望まないという意見があった。

第7回保護者意見交換会（第三中学校区）

- ・日 時 平成30年8月2日（木） 19:00～
- ・場 所 喜多方市立関柴小学校会議室
- ・参加者 19名
- ・主な意見

(1) 何らかの対策が必要

- ① 8年前の入田付と岩月の統合に関わった。子どもの意見がなく、大人や地区の先輩方がどうしても残してほしいという意見ばかりだった。
- ② 地区から学校がなくなるのはつらいが、子どもの将来のことを考えて行った方がよい。
- ③ 統合を経験した保護者の意見として、子どもが新しい環境に慣れるまで3年かかった。いじめもあったようだ。統合になる前に子どもたちの交流、保護者の交流がほしい。統合になった時、居場所がないという意見を聞いた。
- ④ 少人数のメリットはあるが、統合もあるべき姿である。8年前もいろいろあったが、以前ほど、地域の人も過激には考えていない。
- ⑤ 子どものことを考えれば、合併も仕方がない。
- ⑥ 小学校同士の交流もあった。三小の校名も落とすところが、当時そこしかなかった。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校の良さ、現状の中での工夫等）

- ① 熊倉小の子ども達は三中で一番少ない人数だが、三中に行くとも一番活発である。
- ② 三中で熊倉の卒業生は少ないが、活発であり三中をリードしている。

(3) 子供の意見の尊重

- ① 子どもの目線で、子どもを交えて子どもの意見を吸い上げてほしい。

(4) 分からない・決められない

- ① 関柴小はここ数年、児童が 100 人を下回っていないので保護者の意識がそれほど高くない。
- ② 8 年前に統合したが、どちらでも良い。岩月幼稚園で一緒、小学校で分かれ、中学校でまた一緒になるので、それほど違和感がない。

(5) 疑問・要望

- ① 三小、関柴、熊倉を合わせると標準であるが、すぐに小規模になってしまう。平成 35 年以降、子どもの数をどのように見据えているのか知りたい。
- ② 新たな学校の設置や小中一貫のスタイル等は現実に実現可能か知りたい。
- ③ 三中では廃部になった部活動もある。子どもたちがやりたいものが見つからない。部活のために他の学校に通っている人もいる。学校の枠を越えてチーム編成できるようにしてほしい。
- ④ 熊倉小だけ統合から除外してくれといったら、除外になりうるのか知りたい。
- ⑤ 統合になった場合、遠い場合はスクールバス、近い場合は徒歩と、差が出るのではないかと思う。

(6) その他（現状での改善要望等）

- ① 私が通っていた田島地区の小学校も同級生が 7 人で、教師との関わりもあって環境もよかった。しかし、部活動は全員ソフトボールで、それをやるしかなかった。
- ② 中学に入学して、人数の多い小学校からの生徒と一緒にになると、私たち少ない方の小学校出身者は、最初は尻込みしてしまう。子ども同士の事前の交流があったほうがよい。

Ⅱ 地域意見交換会

第1回地域意見交換会（高郷小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月6日（月） 19:00～
- ・ 場 所 高郷総合支所
- ・ 参加者 13名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 統廃合に賛成。中学校は将来を見据えて広い地区で考え、計画が遅くならないようにしたい。
- ② 子どもにとって、どれが一番幸せかを考えるべき。少人数ではできないことも多いと思う。
- ③ 高郷・山都の名を超えた行政区にして、「新たな地域で育てる」という考えになってもいい。
- ④ 中学校は、現状では、デメリットが多いので、ひとつになるしかない。（オール喜多方として学区の再検討が必要）

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 基本的に学校は残してほしいが、喜多方市を全体的に考えて行ったほうがいい。
- ② 個人的には、小学校は残してほしい。
- ③ 教育長より複式学級は避けたいとあったが、自分は、複式で学んだので、このままでいい。
- ④ 高郷は、他地区よりも特徴がある。（カイギュウランドなど）創意工夫でやっていける。
- ⑤ 子どもたちの豊かな感性でやっていける。発掘すれば、いろいろ出てくる。
- ⑥ 息子が高郷三小時代、入学生がひとりだったので、複式学級だったが、よかったと思っている。高郷の子同士がかばい合って乗り越えていけるいい面もあった。
- ⑦ 中学校は、部活のこともあり統合やむなし。その際は、スクールバス等を要求する。
- ⑧ 部活を考えると統合ということになるが、それは、高校に行ってからでもできる。
- ⑨ 個人的には反対。小さな学校も有りだと思う。通学に時間がかかるのもいかなものか。道路の除雪の課題もある。

(3) 分からない・決められない

- ① 地域によって温度差がある。これらの意見をどうまとめるのか、難しい。

(4) 疑問・要望等

- ① アンケート結果で「分からない」の割合が多いのはなぜだろう。市や教育委員会のたたき台があれば、分からないではなく意見がでたのではないかと思う。
- ② 「適正規模・適正配置」という言葉を分からない人もいっぱいいるのではないかと思う。

- ③ アンケートの仕方として、具体例を提示し、これでどうかと聞けば、反応は違ったと思う。
 - ④ 住宅問題等を含め、子どもが地元に戻って来る、地元を離れている人が外から戻ってくる方法を考えてほしい。
 - ⑤ 複式学級がだめではない。複式学級には、市として先生をつけてほしい。
 - ⑥ 一番現場のことを知っているのは、プロの先生方。先生方のアンケートもほしい。
 - ⑦ 10年後、20年後の地域のあり方を考えて、保護者の意見を大きく取り上げてほしい。
- (5) その他
- ① 「分からない」という回答は、保護者が責任なさ過ぎである。

第2回地域意見交換会（山都小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月7日（火） 19：00～
- ・ 場 所 山都開発センター会議室
- ・ 参加者 5名
- ・ 主な意見

- (1) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、特色ある教育、現状の中での工夫等）
- ① 小学校も中学校も残して欲しい。市の人口がこれほど急激に少なくなるとはびっくりである。
 - ② 喜多方市は農業科を全国で初めて取り入れた。農業科を通して地域との関わりができてきている。文字で教えることと、実践で教えることに違いがある。
 - ③ 地域の盆踊りがなくなったが、小学校の文化祭で盆踊りができるようになった。学校の存在は大きい。山都町は耶麻農業高校など、農業に関する特色のある地域なので、教育委員会だけでなく他の部門と協力しながら考えていくことが大切であると考えている。
 - ④ 山都で堰の用水で水生生物の勉強を行い、地域でないとできない、学べないこともある。私は野外観測会で地層の断層を見学したが、今も鮮明に覚えている。地域の資源を伝えていくことが大切と思う。教科書では学ぶが、実践でないと学べないこともある。
 - ⑤ 地域の特性がある。地域の人も子どもに教えることで思い起こしたりすることもある。
 - ⑥ 社会教育では、公民館同士で協力している。交流で仲間ができたり、活動が活発になったりする。広く交流できることが大切である。学習するのは9年間一緒だが、スポーツの時は別でもよい。
 - ⑦ 地域の学校はそのまま、サッカー部や剣道部などの部活動を市全体で行うことができるかどうかを多忙化解消も含めて考えて行くことが大切である。
 - ⑧ 障がいを持っていても他の地区の学校に通っている子どもがいる。障がいを持った子どもたちと交流が持てるようになると、障がいについての理解ができる。障がいを持った人との交流も適正規模・適正配置のポイントになると考える。
- (2) 市全体で人口対策が必要
- ① 地域にとって、子どもは宝である。喜多方市全体で子どもが少ないなら、政策も一緒に

考えて行かなければならないのではないかと、若い人を定住させていくことも大切ではないかと思う。

(3) 疑問・要望等

- ① 適正規模・適正配置を行う上で、体が弱い子どもへの配慮は考えてほしい。
- ② 地域には文化が根付いている。慶徳地区では小学校4年の女子に伝統行事役をやってもらっているが、統合したら市全体で考えていくことになるのか知りたい。
- ③ 教育委員会として、どのような学校にしていくのか、そして、子どもたちの成長の証を、卒業したあとの伸びしろを残して喜多方の子どもたちをどのように伸ばしていきたいと考えているのか知りたい。他の中学校では、自己肯定感を持つ生徒の割合が10%程度のところもあれば、50%、70%のところもある。子どもたちがそこで生きていて良かったと思えるような学校にしていくことが大切である。いろいろな意見を聞いた中で、教育委員会としての考え方を伝え、住民の考えを聞いていくことが大切なのではないかと思う。

(4) その他

- ① 統合に関して実際に他の県で実績のある先生等に意見を聞くことも大切。
- ② 市民との意見交換会で、区長さんと保護者の考え方が違っている。

第3回地域意見交換会（熱塩・加納小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月8日（水） 19：00～
- ・ 場 所 熱塩加納会館
- ・ 参加者 8名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 子どものことを考えた合併は仕方がない。少人数だと、学級の中ですでに序列ができてしまっている。会北中で行われた意見交換会では、若いお父さんお母さんからは、「小さい学校だと将来不安なので、合併するなら早くして欲しい」という意見があった。
- ② 今後の学校規模をどのようにするかを考えると、大変難しい。個人的には統合した方が良いのではないかと。資料のメリット、デメリットを読むとその通りである。子どもたちのよりよい環境を作っていく方針であれば、進めていくべきことではないかと思う。
- ③ 中学校になると、体力もついてくるので、他の地域に行くこともできるのではないかと。思う。
- ④ 会北中で、昔野球が強いとか、サッカーがあったという時期もある。人数も少なくなり小学校のスポ少も無くなり、積み上げが無くなってきている。野球でも、ルールから教えることになるので3年間で1回も勝たないで終わってしまうこともある。3年間で1回も勝たない部活でよいのか、教育的にどうなのかと考えてしまう。現実には、部活動は現在、個人競技である。それを考えると人数が多い方がよい。会北中ではテニスが強い。しかし、スポ少でやってきている生徒は強いが、他の生徒は弱い現実があるのも事実。二極化にな

っている。

- ⑤ この地区は、こども園で全員一緒に、小学校で、2つに分かれ、中学校でまた一緒になる。変則的な形なので、小学校が一つになったほうがよいのではないかなと思う。
- ⑥ 学校の統合はやるならば、思い切ってやるべきである。熱塩加納は縦長なので、小学を1校にし、地域が維持できるような環境を作り出していくべきではないか。園小中一貫が良いと思う。
- ⑦ どこと一緒にするのかを考えると、加納小と熱塩小が一緒にするのがよいと考える。しかしこれから何年間後に、また同じ問題になるのであれば、松山小、上三宮小と一緒にするのも良いかなと思う。正直心が揺れ動いている。
- ⑧ 会北中では好きな部活動ができないので、二中、三中へ行く子どももいる。加納小と熱塩小を一緒にすることはすぐにできるのではないかな。それほど難しいことではないのではと思う
- ⑨ できれば、熱塩小と加納小の統合を考えていただきたい。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① アンケートの結果からほとんどの人が合併したほうがよいという意見であるが、小学校がなくなるのは寂しい。
- ② 学校という枠を外して移動教室を行うのはどうか。例えば熱塩小や加納小の子どもが一小や二小へ1週間や2週間行き勉強を一緒に行う。またはその逆で一小と二小の子どもが熱塩小へ来る。そうすれば、子どもたちが、大きな一中や二中に行きたいと思う子どもも出るし、その逆で会北中のような少ない学校の方が良いと思うことになるかもしれない。学校の枠にこだわらなければ、自由に子どもたちが行きたい学校に行くようになるのではないかなと思う。市内の子どもたちが熱塩の方に来て、農業体験を行ったり、給食を食べたり、音楽やスポーツを一緒に行うことで、高校に行ったとき、また一緒になって良いのではと思う。
- ③ 地域で子どもたちに声をかけているが、スクールバスになると、地域との密着が少なくなる。

(3) 疑問・要望等

- ① もう少し早く適正規模・適正配置をできなかったのか残念である。もう少し早いと地域を出ていかない人もいたと思う。
- ② 3世帯の若い人たちが地区から出てしまった。地元に残れるように早い時期、早い段階で対応が必要。
- ③ 保護者がどのように考えているとか、意見を聞きたい。

第4回地域意見交換会（松山小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月9日（木） 19：00～
- ・ 場 所 松山公民館

- ・ 参加者 9名

- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 小学校も2クラスくらいあった方がいいのではないかなと思う。
- ② 歴史のために、学校を残してほしいと子どもを犠牲にするのはナンセンス。子ども立場で通学や人数のことを考えていきたい。
- ③ 親は、大きな学校に行かせたがると思う。
- ④ 大きな学校には、部活がたくさんある。先生もたくさんいる。
- ⑤ 小規模校だとチームプレーのスポーツができない。生徒が希望する部活動をさせたい。
- ⑥ 部活動については、先生たちの指導の問題もある。ある程度の規模がないと、指導者とのいい出会いができない。
- ⑦ 20人ではできなくても、100人200人規模でできることがあると思う。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 個人的には、学校も名前を残したい

(3) 分からない・決められない

- ① 上三宮から転校した人が、一小と松山小を見学して松山小を選んだという話をきいた。子どもにとってはあまり大人数な学校も負担な部分もあると思う。
- ② 廃校した後の建物の利用は難しい。

(4) 疑問・要望等

- ① 教育委員会は、何をもって「適正規模・適正配置」と考えているのか知りたい。
- ② 教育委員会が、何か案をもっていないと話し合いにならないのではと思う。
- ③ 文科省の中でいいと思う学校スタイルをもってきてほしい。
- ④ 小・中学校だけでなく、それに関わる行政区のことも考慮してほしい。
- ⑤ 教育委員会で案を示してもらった方がいいと思う。
- ⑥ 秋田のように、これからの学校のよきスタイルを喜多方にもってきてほしい。
- ⑦ 自分は、高校で教師をしていた。子どもは、人が多い所を求めてくる。このまま人口が少なくなるのであれば、増やす方法を考えた方がいい。
- ⑧ 喜多方高校も定員割れの現状。国内留学してくるような学校をつくってほしい。
- ⑨ 名前は第四、第五、・・・は、やめてほしい。地区名は残してほしい。

(5) その他（現状での改善等）

- ① 学区のあり方が問題。松山町の多くが第一小に通っている。ひとつの町をつくるには、同じ学校で学んでほしい。
- ② それぞれの中学校の部活に特色をもたせるなど、ミックスするような考え方もいいのではと思う。

- ③ 部活動は、人間関係を学ぶいい機会である。専門家の指導者で強くなる。
- ④ 教育の費用を平均化にするのではなく、ある面に特化した指導者を採用してほしい。
- ⑤ 特色のある学校づくりをめざしてほしい。

第5回地域意見交換会（堂島小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月10日（金） 19：00～
- ・ 場 所 堂島地区公民館
- ・ 参加者 6名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 将来、塩川小は、一小と変わらない人数になる。このままいって塩川小の建物のこともあるし、残りの小学校の配置も大変不安である。
- ② どこかの小学校と結びつくが、地元の考えとして、堂島が無くなって、駒形が残った、姥堂が残ったというのは、地元では感情的につらい。理想は大規模小学校1校、大規模中学校1校がよい。
- ③ 山都の小学校スポ少がバスケットボールで、県大会で優勝したが、中学校でバスケ部がなく、バレー部に入る現状がある。塩川中では卓球部がないなど、当たり前にある部活動がない。部活動でも、多い部と少ない部に分かれる。校庭の限られたスペースでやらなければならない現状である。
- ④ 仮に堂島小が70人の子どもで残ったとしても、10年、20年先、人数が分からない訳だが、その後、堂島はまぜないと言われると、堂島の子どもたちが困ってしまうことになる。人数は分からないが、10年後に人数が30人になったら、統廃合に混ざるしかないのではと思う。
- ⑤ 小学校がなくなることによって、地域の疲弊がはじまり、大きなコミュニティがなくなる。しかし、10年たって子どもが30人をきっても、学校を残すことがいいのかどうかは、大きな問題。
- ⑥ 山都の二小・三小が合併になったときは、山都地区の皆さんは合併を望んだ。それは運動会などの団体競技ができないからだだった。しかし入田付は反対したが、最終的には合併した。子どもの数が30人、20人では学校が成り立っていかないと思う。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 地域のコミュニティの核となる小学校としては、今の規模が適当だと思っている。
- ② 地区としては小学校は残して欲しい。
- ③ 大切なのは、地域のコミュニティだと思う。現状がそれほど変わらないのであれば、現状を維持していただき、その中で教育効果を高めていただきたい。
- ④ 小学校がなくなると、地域のコミュニティが失われてしまう。児童クラブも運動会もなくなる。地区の運動会にも、子どもが参加しなくなってしまう。子どもがいなくなるということは、地区にとって大きな影響がある。

- ⑤ ここ堂島は地域との親密性が強い。堂島小は残ってほしい。
- ⑥ 塩川の方に新しい学校が出来たら、若い夫婦世代は、地元の学校に残らないで、新しい学校に行くことになり、どんどん地域が疲弊してしまうことになる。

(3) 疑問・要望等

- ① これから５年間は、それほど子どもの数はかわらない。１０人規模の児童数だと、活気がないと思うが、専門家として、１０人以下の数をどのように考えているのか知りたい。
- ② 標準規模があるが、これを目標にして学校の統廃合を考えていくのか知りたい。
- ③ 山都や入田付では、統合があり、山都は賛成が多かったが、入田付では地区のコミュニティーはどうなったのか。知りたい。
- ④ 適正規模・適正配置は同時期に一斉に行った方がよいのではと思う。
- ⑤ 場所によっては、豊川や姥堂の方が近い地域もある。他の学区へ通っている小学生もいる。学区をシャッフルすることも検討すべきである。
- ⑥ 適正規模適正配置という言葉がわかりにくい。統廃合という言葉だと、関心を持つようになる。実施計画ができて、どこの学校とどこの学校がどうなるかとなると、関心が高くなる。
- ⑦ 塩川地区で小学校が１校となった場合の交通手段を検討してほしい。
- ⑧ スクールバスについては、かつて議員がスクールバスの要請をしたが予算の関係で断られた。学校から４ｋｍ離れると自転車の許可になるのか、スクールバスの検討をしてほしい。
- ⑨ 意見交換会の名前を、適正規模・適正配置から統廃合という名前に変えた方がよい。

(4) その他

- ① 今日の説明会に人が集まらないのは寂しい。
- ② グローバル化があるが、１クラス１０人くらいである。競争力も必要ではないか。１０人くらいでも大丈夫か。もう少し多い中でもまれた方がよいと思う。

第６回地域意見交換会（塩川小学校区）

- ・ 日 時 平成３０年８月１６日（木） １９：００～
- ・ 場 所 塩川公民館
- ・ 参加者 ３名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 自分が通った学校に固執するわけではない。子どもたちにとって適切な環境があれば、その方がいい。運動会で、チームが組めないような現状があれば改善した方がいい。
- ② 学区再編制だけでは、収まらないだろう。そうすると新しい学校が必要になる。そもそも学区再編制は、心情的にどうかという問題がある。

- ③ 塩川地区でひとつの学校にするなら、通うのに便利な位置に立地したい。すべて平等・均等にとというのは難しいが、山都などと比べたら恵まれている。

(2) 分からない・決められない

- ① 人口減少は、喜多方だけの問題ではないので、よく分からない。
- ② 先日、議員との懇談会に参加したが、「塩川小に来ている子をうまくコントロールできないか」という話がでていた。
- ③ 堂島、姥堂、駒形に振り分けてはどうかくらいしか思いつかない。学区をもとに戻すという考えもあるが、小さい子が身近にいないので実感がない。ピンとこない。

(3) 疑問・要望等

- ① 子どもを中心に考えた方がいい。それが一番。

第7回地域意見交換会（慶徳小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月17日（金） 19：00～
- ・ 場 所 慶徳ふれあい館
- ・ 参加者 4名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 地域に子どもたちがいることは地域にとって重要なことである。地域の活動と子どもたちは密接に結びついている。御田植え祭りに子どもは必須である。5年生の男児ばかりなので早乙女になる子どもがいなかった。これからの教育は、子どもの数が少ないことが良いとは限らないと思う。
- ② 学校が知識を教えるだけの場所になると、地域との関連がなくなってしまう。
- ③ スクールバスが迎えに来てくれる利便性の高いザベリオに通う子どもも増えており、地域性が弱くなってきている。子どもたちを学校に集めるだけでなく、地域との関連を考えながら、スクールバスの運行などを考えていただきたい。
- ④ 慶徳小のように少ない人数でやっているのだったら、大勢の仲間と勉強するのもよい。御田植え祭に参加しなくなるようなのは避け、地域との関係を残して欲しい。
- ⑤ 慶徳小だけを見ると、人数が少なくなっている。近くに通学でき、地域の目が届くところで子どもが勉強できると、少しは安心である。しかし、このままいったら、廃校が目に見える。いつかは統合して他の地域の子どもたちと和気あいあいとやっていくのも、子どもたちのためである。
- ⑥ 小規模校の良さはある。保護者のつながりが強い。授業参観でも参加率はすごく良い。子どもたちみんなが主役になれる。学年だけでなく、子どもたち全体が仲が良い。先生方も授業に全員が参加できるが、寂しい。遊ぶ子どもも同じ学年で決まっている。PTA活動もできない。小規模校の良さもあるが、統合した方がよいのかなとも思う。
- ⑦ 喜多方一中も3クラスで、多い部活動は人数がいるが、少ない部活動は人数もぎりぎ

りである。多いように見えて、実は少ない。迷っているが、統合するといったら、従うだけである。交通手段をしっかりとってきて、統合になるならなで、早くしていただきたい。大胆な改革をした方が、保護者もついて行きやすいと思う。

- ⑧ 統合するなら、部活や地域との関わりを積極的にすすめてほしい。部活動などでも他の学校と合同で活動していくのもよいのではないかなと思う。
- ⑨ 学校間のネットワーキングを進め、地域との関わりを進めるとか、学校間との関わりを進めるとか。ある地域ではネットワーキングを進めることで、成果をあげているところもある。
- ⑩ 小規模校同士がネットワーキングを行い、統合時のストレスを少なくする。例えば、豊川小と慶徳小が統合するのであれば、御田植え祭や芋掘りに豊川小から参加するとか、豊川小におもしろい部活動があれば、慶徳小から参加すると、統合の時に効果があると思う。
- ⑪ 統合するのであれば、二小、豊川小、慶徳小の一中の学区で行う方が良いと思う。塩川中学区とかではなく、一中学区で行うべき。

(2) 疑問・要望等

- ① 小規模認定校や、中高一貫校のように、もう少しビジョンが見えると、保護者としてこうしたいという意見が出ると思うが、統合かそのまま残すかという感じなので見えてこない。
- ② 通学に力を入れるというが、どのような支援をしていくのか知りたい。今のようなデマンドバスだと、子どもたちの活動が途中で途切れてしまう。通学の手段をもっと柔軟にしていく必要がある。例えば、電話ですぐ配車ができるシステムがある。ウーバーシステムを使っていくと配車ももっと楽になるのではないかなと思う。
- ③ 小学校の保護者ももっと来られるようにしてほしい。
- ④ もう少し多くで話し合いができるようにしてほしい。

(3) その他

- ① 大切な話し合いなのに人数が少ないので残念である。関係者を集める努力もしていかなければならない。
- ② この会議が行われていることを知らない保護者が実際に多い。この後、慶徳小学校区でこのような意見交換会がないと、保護者の意見は記述だけでは出てこないと思う。
- ③ 慶徳小は授業参観の合間にアンケートを書かなくてはいけなかったのに、回収率は悪いと思う。
- ④ 熊が出たことについても、学校に伝わらないこともある。なかなか情報が共有されず、うまくコミュニケーションがとれていない。もう少し連絡を密にできるようにしていきたい。
- ⑤ 二小、豊川小、慶徳小が統合してもそれほど大きくならないと思う。

第8回地域意見交換会（駒形小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月20日（月） 19:00～
- ・ 場 所 駒形地区公民館
- ・ 参加者 3名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 私の孫はサッカー部で、外が暗くなってから帰ってくる。登下校の方法をしっかりと考えてもらわなければ、反対である。地元小学校があれば地元はまとまる。小学校がなくなると地域はすたれる。活気がなくなる。しかし、子どものためになるなら、統廃合も仕方ない。
- ② 塩川を一つにすれば良いのではないかと思う。
- ③ 通学の手段を考えなくてはいけない。
- ④ 駒形小の跡地に何かの施設を持ってくることを考えてくれればよい。
- ⑤ 塩川地区の3つを合併では文句が出る。
- ⑥ 分校では格下げという見方になる。〇〇小学校駒形校舎という風に置く。先生方を回せば良い。
- ⑦ 合併したら、スクールバスなどで帰る場合、子どもが帰った後のことも考えてほしい。児童クラブや、それにかわるものについて考えてほしい。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 統廃合のイメージがわからない。確かに自分が小学校に通っていたときと比べると、児童数は減っているが、やはりイメージがわからない。今のこの人数なら、現状維持で良いのではないか。ただし、人数が少ないのは事実で、自分の下の子どもの下には子どもがいないので、集団登校はできない。送り迎えになる。その辺は考えなくてはいけない。
- ② 学校として、運営が成り立たないのであれば統廃合も仕方ないが、今は行事等ができているし、運営が成り立っているので今のままが良いと思う。
- ③ 基本的には、今のままで持ちこたえて、合併しないというのが基本的な考え方である。
- ④ 10年後のことはわからない。基本的には現状維持で頑張ってもらいたい。
- ⑤ 区の中では、小学校はなくさないでほしい、という意見がある。熊倉小はバスがなくなって子どもが歩いている。中には1時間かかる子どももいると聞いている。
- ⑥ バスの時間があると活動が限定される。それをクリアできないと大変である。

(3) その他

- ① 県立高校の適正規模適正配置はずっと前からやっている。結論がでてるのは只見、北海道では例えば会津高校の〇〇校舎といったような、校長を一人にして、教員はローテーションで授業を行う方法もある。基本方針の中に複式学級がいくつできると合併というようなことをいれてはどうかと思う。そうすると、地域が納得できるのではないか。坂下や猪苗代も合併をしている。そこを参考にしてはどうか。小学校をここに置くから、

子ども園はここに置くといったギブアンドテイクをしていると聞く。ここもそのようなことをしてはどうか。また、学区の変更ができれば良いのではないか。学区を行政的に組み入れた感じがする。

第9回地域意見交換会（第一小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月21日（火） 19:00～
- ・ 場 所 厚生会館
- ・ 参加者 3名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 子どもが卒業して20年になるが、祭りや育成会の現状は厳しい。スポ少も参加せざるをえない状況がある。学校はある程度の規模（クラス）がないと成り立たない。クラス替えや部活が選択できることが望ましい。問題は、通学。あまり遠くても困る。

(2) その他

- ① 一小・二小は、小さい学校が来ると思っているが、吸収される方の立場を考えないといけない。一小全体では、ある程度の人数はいるが、新道地区の今年の1年生はゼロ。旧市内の人口減少が著しい。
- ② 寺町1区も同じ。人は、出て行く一方である。幼稚園・保育所が無くなっている現状も大きい。
- ③ 少子化に対する対策が遅れたのではないかと思っている。待機児童が減ってきて、保育所の運営が難しくなってきた。現在のこども園では、0歳児を受け入れないので、預ける場所がない。少人数の学校では、教員が少ないので、相性が合わなければ辛い。人が少ないともまれていないので伸びない。伸びようという気持ちも育たない。子どもを育てることは、未来をそだてること。地域の人に関心が無い。
- ④ 一小地区は、関心が無い。
- ⑤ 過疎地区は、心配している。
- ⑥ 数字からいくと、学校はひとつで済む。しかし、学校が無くなると、地域がますます廃れる。地域の人々の話題は、「松山と上三宮が一緒に、豊川と慶徳が一緒になるんだろう。」ということとなっている。松山の行政区と学区の問題もある。役所が何か決めてくれないと、意見も出ないのではと思う。
- ⑦ こういうことは、役所が決めると思っていた。今までこんな意見を聞く会があったとは、知らなかった。

第10回地域意見交換会（第二小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月22日（水） 19:00～
- ・ 場 所 市役所大会議室
- ・ 参加者 3名

- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 自分は、門田小出身。学年7クラスもあると、誰がだれだかわからない。多すぎるのもどうかと思う。30人の3クラスぐらいの人数がいた方がいい。現在4年生（2クラス）に子どもがいるが、3クラスはほしいと思っている。子どもが増えるのが一番だが、それは難しい。統合の際は、通うのが大変なので、フォロー体制をとってほしい。行政区と学区の問題もある。上高額だが、関柴の町民運動会には行かない。
- ② 原則は、文科省が言っている適正規模「12クラス～18クラス」でやるべき。ただし、適応できない子には配慮すべきである。

(2) 疑問・要望等

- ① 教育長が松山で言っていた「コミュニティ・スクール」について知りたい。

第11回地域意見交換会（姥堂小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月23日（木） 19：00～
- ・ 場 所 姥堂地区公民館
- ・ 参加者 8名
- ・ 主な意見

(1) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 姥堂小学校の合併には反対で、姥走小学校を残してほしい。人を増やせるようにしてほしい。

(2) 疑問・要望等

- ① 児童生徒の数の推移は今のままという数字である。市は立地推進計画をすすめているが、教育委員会としての考え方だけで、適正規模・適正配置を進めるのか知りたい。
- ② 教育委員会としての考え方を示さないで、必要か必要でないかわからないが4割もあるアンケートの結果で大丈夫なのか、検討してほしい。
- ③ 学校の適正規模・適正配置を教育委員会として決定していけるのか知りたい。
- ④ 市民に情報を出しながら決めていくようにしてほしい。
- ⑤ 地域での案をつくり実施していくということは、市全体でなく、例えば姥堂地区だけの案を作り、進めて行くということか知りたい。
- ⑥ 地域ごとに決まりましたという考え方で、本当に市全体の考え方として大丈夫か知りたい。
- ⑦ Aのエリア、Bのエリアで、Aが決まったがBは決まらない場合、まとまったところから実施してほしい。
- ⑧ 中学校区をこえて、学区をこえるような学区の見直しを考えることも検討してほしい。
- ⑨ 市の方針に合った青写真を持って統廃合を行うべきである。統合した場合、小学校がなくなって地域のコミュニティーがなくなる。坂下町の統合がどのくらいの期間でやっ

ていたのか参考にしてほしい。

- ⑩ 基本は、中学校単位での統廃合を考えてほしい。資料を当日いきなり渡されても、意見を述べるのは難しい。我々の方の姥堂小の規模からは少なくなっている。
- ⑪ 御殿場地区が増えて塩川小が増えた。教育委員会の論理だけでなく、町づくりということを考えてすすめてほしい。
- ⑫ 地元の学校には愛着があり、学校をなくしたくない。アンケートにしても地域の住民との話し合いの結果にしても、都市計画に配慮して市の政策として考えていただきたい。

(3) その他

- ① 姥堂の区長会長より、橋本と前田の団地が古くなったので、子どもを持った人たちが入れるようにしてほしいという、意見があった。姥堂こども園の子ども達はたくさんいるが、姥堂小には入学しない。他の小学校に行ってしまう。
- ② こども園のまわりの環境整備をすすめる。姥堂村みたいな考え方で、子どもの数をいかに増やしていくことを地区で考えていく。塩川小が増えたのは御殿場地区が増えたからで、同じように姥堂地区も増やしていきたい。

第12回地域意見交換会（上三宮小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月24日（金） 19:00～
- ・ 場 所 上三宮遊樹館
- ・ 参加者 5名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 小学校が地域のよりどころではあるが、思っていた以上に子どもが少なくなっている。子どもの教育のことを最優先に考えて、ある程度の規模（人数）の中で教育させてあげたい。
- ② 公民館が、小学校に変わるよりどころになることが大切なのは。そうなるように頑張っていきたい。
- ③ 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）
- ④ 地区住民としては、学校があつて地域があると思っているので、残してほしい。自由に他校に行けるようになったことも、子どもたちが減ってしまった原因だと思う。
- ⑤ 大きな学校についていけない子どももいるはず。外から受け入れる学校もいい。
- ⑥ 人数が少ない方が、より優秀な子が育つということもある。何かのテレビで、1年生から6年生までを同じ教室で教える姿を見たことがある。

(2) その他（定住・人口対策等）

- ① 若い世代が、子どもを連れて学区から出て、同居していない。そこをなんとかしたい。
- ② 自分たちのころは、ベビーブームだったが、地区にも結婚しない人がいる。「上三宮だと同級生がいらないから他の学校に行く」という話を聞く。

- ③ 子どもには、いい環境で勉強させてあげたい。子どもたちの意見もきいてみたい。「あの学校に行けば、こんないいことがあるよ。」極端なことを言えば、「この教科は、この学校に行けば伸びるよ。」という人数が増えていく方策があるといい。
- ④ 地区の中では、小学校に行っていない家庭では、そもそも話題になっていない。関心がない。

第13回地域意見交換会（第三小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月27日（月） 19：00～
- ・ 場 所 岩月交遊館
- ・ 参加者 5名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 個人の意見であるが、入田付地区で、小学校1年生は私の家だけである。入田付、岩月の合併の時、反対の立場であったが、親の立場で考えると、子どもがかわいそうである。
- ② 地元から子どもの声が聞こえなくなるのは寂しい。自分の子どもが小学生になったとき、何人くらいになっているか心配である。学校は自分の出たところが母校になるので、自分の卒業した学校と子どもの学校の校歌が違うのは寂しい。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 複式学級で学べることは良い面もある。
- ② スクールバスで1時間もかかるので、その時間を他に使えるのではないかと思う。
- ③ 岩月は統合してから何年もたっていないので、このままでもよいと思っている。
- ④ 子どもに負担がかかるので、今のままで良い。
- ⑤ スクールバスを利用すると、近所の子どもの顔を見ることもなくなる。地域のコミュニケーションがなくなる。
- ⑥ 三小に統合した結果、地域のこどもなのか、他の地域のこどもなのか、分からなくなっている。

(3) 疑問・要望等

- ① 適正規模・適正配置という言葉について、三小は適正規模の学校にあてはまるのか知りたい。
- ② 上三宮地区から一小へ通っている子どももいる。学区を越えて通う理由は何か知りたい。
- ③ 通学に1時間以上もかけることはしないと聞いた。国で決まったルールだからといって、その通りにしなくても良いのではないかと思う。
- ④ 喜多方の特徴を生かした学校を作ることでも良いのではないかと思う。
- ⑤ 大規模校と小規模校での成績の差はあるのか。資料はあるのか知りたい。

- ⑥ 入田付小は統合後、校舎も利用されていない。もっと利用すべきではないか。
- ⑦ 地域に学校の校舎が残されると負の遺産になってしまう。市で管理してもらえたり、民間で管理してもらえれば、地域の負担も少なくなる。
- ⑧ 合併まで時間がかかり、最終的には賛成が増えた。期限までに合意しないと閉校式は行わないとかの話があった。反対派にとっては、強制的に合併させられたという意識があった。市の方で基準を作っておいて、基準を超えると合併です、といった基準があれば良いのではないか。就学児童のいる家庭では、合併に賛成の意見が多いのではないか。賛成、反対はなかなかまとまらない。
- ⑨ 行政的、経営的な視点ではなく、子どもの視点で考えていただきたい。適正というのは、市民の意見を聞いて、市の適正を考えるということか知りたい。
- ⑩ このまま学校を残すかなくすか、どちらもメリットデメリットはある。メリットデメリットを出して、判断するしかない。市教委でそれを出す方が、地域の意見を聞くより市で意見を出した方が良いのではないかと思う。
- ⑪ 市としては、地区の意見は集約しました。ということになると思う。せめて区長は全員出席させて話し合いを地区に戻して話し合う配慮があるべきではないか。前の統合の時は突然統合になった感じがする。
- ⑫ 前回の統合では、統合までの流れが早すぎた。意見が伝わらなかった。特徴的な学校と言ったが、夢想館を残していただきたい。昭和村でも観光の拠点になっている。夢想館を市の観光の目玉として活用し、存続させてほしい。
- ⑬ 学校が遠い地区の人たちが減少している。その辺も踏まえた考えをお願いしたい。若い人たちは学校の近くに家を建てることになる。どんどん人が減ってしまう。

第14回地域意見交換会（熊倉小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月28日（火） 19:00～
- ・ 場 所 熊倉公民館
- ・ 参加者 9名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① この話が出てきたということは、“どうにかする”ということだと捉える。統合するのなら、いきなりではなく交流できる環境をつくってほしい。

(2) 現状維持（地域に学校を残す、小規模校のよさ、現状の中での工夫等）

- ① 仮に、関柴と一緒にした場合、雄国の人たちは4kmを超える。スクールバスを出せばいいという話ではないと思う。
- ② 学校は、子どもが学ぶだけでなく、地域の人が集う場所。どんなに子どもが少なくても、学校は残してほしい。
- ③ 人間の教育は、競争だけではなく、一人一人の特性を伸ばすこと。少人数のほうが、いい面がたくさんある。

- ④ スポーツは、地域を越えてチームをつくるなど、学校でできることと地域でできることに分けていけばいい。
- ⑤ 「小学校だけではなく、地域の体育館ですよ。」と言われるが、立派な体育館がもっていない。孫が、新潟の大きな学校に転校した。子どもたちはすぐに慣れた。大きな学校のよさ、小さな学校のよさ、どちらもある。
- ⑥ 公民館に努めているので、一市民としては、学校は残してほしい。

(3) 疑問・要望等

- ① 【行政区としての意見書】を提出・・・市全体で、過疎化の地区の心配、少子化問題の取組を行ってほしい。
- ② 過疎地に住んでもらう施策を考えてほしい。
- ③ 一人っ子が多い現実。子育てしやすい施策を打ち出して、若い人が住みやすいようにしてほしい。
- ④ 資料を見ると、熊倉小学校の保護者の中には、厳しい意見がある。必要があるという保護者の意見も、少数意見も取り入れてほしい。

(4) その他（定住・人口対策等）

- ① 保護者と未就学児保護者には、今日の会にきてほしいと回覧を回したが来ていない。
- ② P T Aのアンケートで、熊倉小のページが何ページもある。熱心に考えたことが分かる。
- ③ 幼稚園（こども園）が関柴と一緒に上になった上に、また小学校も取られてしまうのかという思いがある。しかし、複式は困る。運動会で、対抗競技ができない。競争意識が低下するのも避けたい。反面、遠くまで通うことになるのも問題がある。だから、「分からない」ということになる。
- ④ 若い人が、地区に住んで子育てをするよさをアピールしなければならない。
- ⑤ 地元にも、魅力的な職業がない。農業を引き継げば、たいへんなことばかりである。
- ⑥ アスパラの研修に来たい、住みたいという人もいる。（40代で、未就学児がいる人の例がある。）PRやよさの発掘の必要。
- ⑦ 岩月、入田付の統合の件、入田付の人からは、統合してから行政サービスが悪くなったという意見がある。
- ⑧ 子どもが第三中に通っている。やりたい部活のために、他町村から第三中に通っている子もいる。自分もそうするかと思う。

第15回地域意見交換会（関柴小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月29日（水） 19：00～
- ・ 場 所 関柴公民館
- ・ 参加者 4名

・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 関柴小の人数はそれほど少なくないが、一小、二小、塩川小が人数が多く、上三宮小はなくなってしまふ。関柴小のことだけ考えてはいけなない。(関柴小だけなら現状維持でよいのではないか。)
- ② 全校児童50～60人の小学校は近くの小学校と統合しなくてはいけないのではないのか。各校の経費のことも考えなくてはいけない。統合は避けられないのではないかと思う。
- ③ 関柴小は100人を超えているので存続し、全校生が40～50人であれば、6学年で割ると1クラス7～8人、そういうところは統合しなくてはいけないのではと思う。

(2) 疑問・要望等

- ① 適正規模・適正配置が分からない。方針を住民に示さないと意見は出ない。
- ② 関柴、熊倉、三小を統合するとしたら、どここの学校に統合するのか。真ん中の学校にするとしたら、色々な意見が出る。吸収合併となって、熊倉が関柴には来ないと思う。
- ③ 学区は廃止できないのか、知りたい。こども園は学区を外して自由になった。
- ④ 子どもが今後、減っていく。子どもを産む人も減っていく。日本は都市部に集まり、地方に住む人が増える政策を国が作っていかないといけないのではないかと思う。
- ⑤ せっかくの意見交換会に、二人しか集まらないところがあった。もっと人が集まる方法はないか。

(3) その他

- ① 関柴町でも、二小と関柴に分かれている。
- ② 地区に学区が2つあってはやりにくい。運動会にもこちらからお願いしないと来ない、学区が違ふと来てくれない。下平団地ができた時は若い親がいて、子どもも増えたが、今は子どもが少なくなってしまった。
- ③ 地域のコミュニティーをどのように作っていくのかが課題である。
- ④ 入りたい部活がなくて、他の中学校へ通っているという話もある。関柴小のソフトボールが強いが、三中にはソフトボール部がないので、二中へ行った子どももいる。

第16回地域意見交換会（豊川小学校区）

- ・ 日 時 平成30年8月30日（木） 19：00～
- ・ 場 所 豊川公民館
- ・ 参加者 7名
- ・ 主な意見

(1) 何らかの対策（統合等）が必要

- ① 二小と豊川小に分かれている地区がある。中学校の学区ごとに小学校を統合してはどうか。

- ② この現状では、統合は必須。中学校に小学校の併設がいい。統合しても、自分が住んでいる所に誇りを持ってやっていけるものである。
- ③ 小学校の統合は、やむをえない。統合すべき時代にきている。豊川小の半分の子どもたちが児童館に来ている。統合したときは、放課後子ども教室を充実させていきたい。
- ④ 児童数や学校の格差を見ると、このままでいいと言う人は、だれもいないと思う。
- ⑤ 単式学級の子と複式学級の子では、義務教育とは言っても、平等ではない。

(2) 疑問・要望等

- ① 孫が、塩川に住んでいる。1年生が3クラス。狭い児童クラブに100人もいる。多すぎるのもどうかと思う。
- ② 教育費を削ることは、国力を削ること。日本人の頭脳が、一番の財産。世界に誇れるのは、日本人の頭脳である。そこに力を入れてほしい。
- ③ どれくらいの規模が適正かを、よく考えてほしい。
- ④ ある程度、効率よくまとめていくべきだが、人員や設備のまとめ方に、国のガイドラインは、どうなっているのか知りたい。

(3) その他

- ① 先生のレベルを上げることに、国が協力すべきである。この現状に対応するのが、大人の役割である。
- ② ある大学教授が、「過疎と集中のある地域は、これからはおもしろい。」と言っていた。地域の大きな目標をもつことが大事である。

小中学校適正規模適正配置の基本的な進め方

[2018 年度以降]

1 はじめに

小中学校の適正規模適正配置を進めるにあたっては、本市の教育振興基本計画の基本理念「自分と郷土を誇り、自立と共生の精神をもって、たくましく生きる喜多方人の育成」のもと、学校教育の基本目標として掲げた「全ての子どもの『生きる力』を育む」の実現に向け、今後も人口減少と少子化の進行が予測される状況下において、子どもたちにとってより望ましい学習環境を目指した教育的な視点で市域全体について検討を進めるものとする。

さらには、防災や地域コミュニティの核として様々な機能を持つ学校の性格を踏まえ、地域の実情と保護者や地域住民の考え方、要望等を十分把握しながら、丁寧な説明と議論を行い地域住民の理解と協力を得て取組を進める。

また、2015 年（平成 27 年）1 月に文部科学省が示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」や先進的な取組を実施している市町村の実態等を参考に検討を進める。

基本的な手順は、以下のとおりとする。

2 基本的な考え方

(1) 基本方針

保護者や地域住民等の意見・要望等を踏まえ、活力ある学校づくりに向けて教育委員会としての理念や基本的な考え方、方向性、取組の進め方等を整理し基本方針を策定する。

(2) 実施計画

基本方針を策定した後、その基本方針に基づき、地域の実情を踏まえながら、具体的な取組とその進め方、課題やその対応策等を検討し整理したうえで、実施計画（地域別に記載）を策定する。

3 基本方針及び実施計画策定の流れ（別紙「●基本的な流れ」参照）

(1) 基本方針

基本方針の策定にあたっては、2017 年度（平成 29 年度）に実施したアンケート調査の結果、2018 年度（平成 30 年度）に実施した保護者や地域住民との意見交換会の結果等を参考にしながら案を作成し、パブリックコメントを経て決定する。

(2) 実施計画

実施計画の策定にあたっては、基本方針に基づき案を作成し、保護者や地域住民との協議を経て決定する。

4 実施にあたっての考え方

実施計画を決定した地域から、順に実施に移していく。

5 推進体制

(1) 喜多方市立小中学校適正配置等庁内検討委員会

① 幹事会

庁内検討委員会の下部組織として、関係課長により構成する幹事会において、小中学校適正規模適正配置に係る基本方針案及び実施計画案など庁内検討委員会で検討する案件の整理調整を行う。

② 検討委員会

庁内関係部長により構成する検討委員会において、小中学校適正規模適正配置に係る基本方針案及び実施計画案等の検討を行う。

(2) 教育委員会

基本方針案及び実施計画案等について協議を行い、喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会からの答申を踏まえ、基本方針、実施計画として決定する。

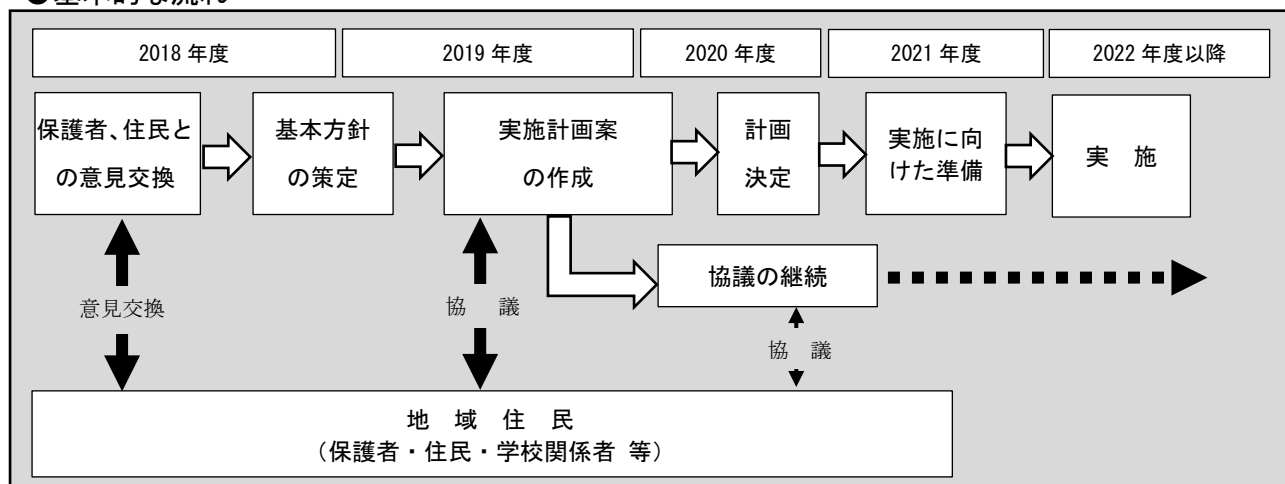
(3) 総合教育会議

市長、教育長、教育委員で構成する総合教育会議において、基本方針案及び実施計画案等について、協議・調整を行う。

(4) 喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会

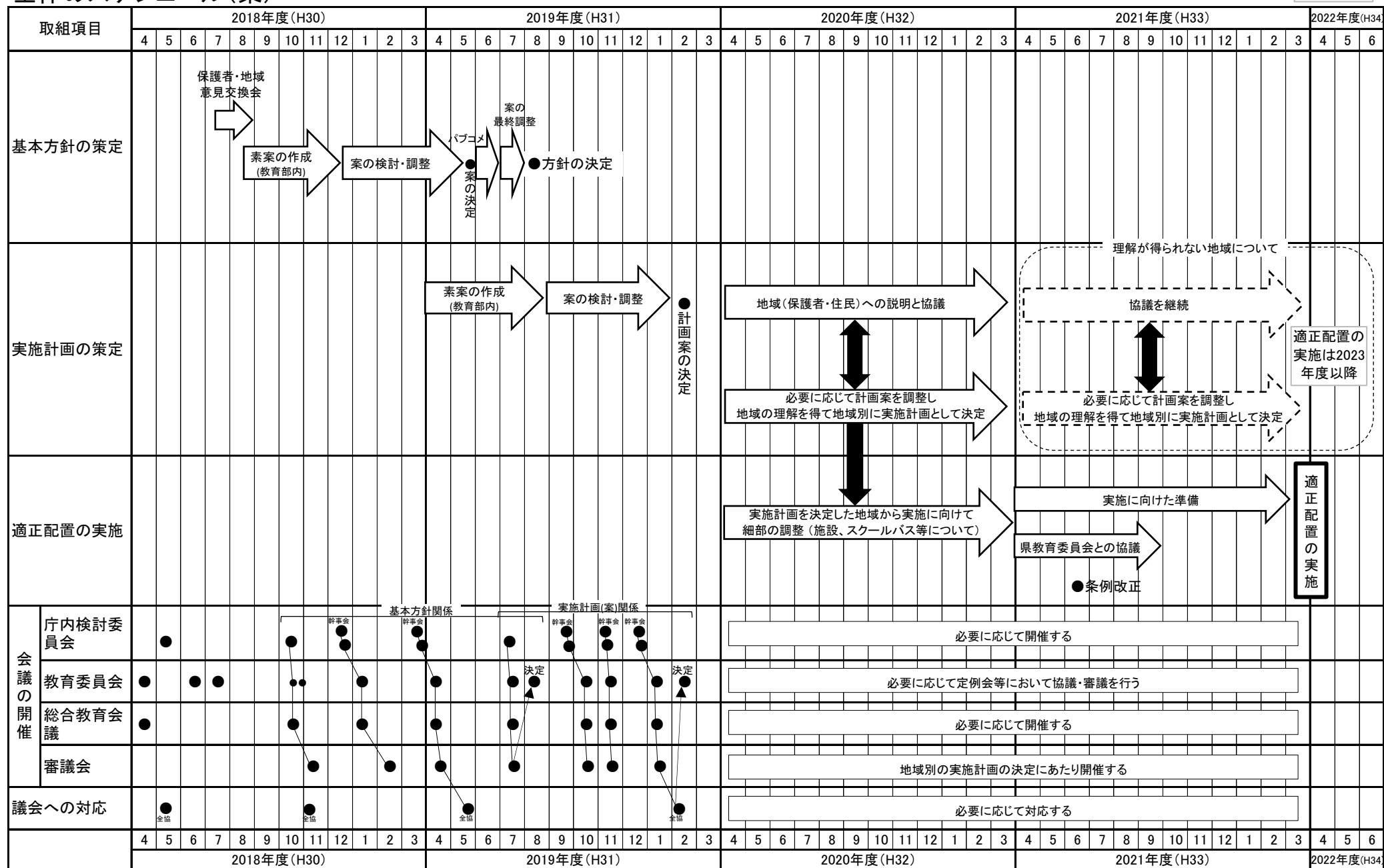
教育委員会からの諮問に応じ、小中学校適正規模適正配置に係る基本方針案及び実施計画案について調査・審議して答申を行う。

●基本的な流れ



全体のスケジュール(案)

別紙3



別紙 4

取組項目	2018年度(H30年度)										2019年度(H31年度)				
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
基本方針の策定	保護者・地域 意見交換会 方針の素案(たたき台)の作成 (教育部内の作業) 方針案の検討・調整 ● 案の決定 パブリック コメント 案の 最終調整 ● 方針の決定														
検討委員会 (幹事会)	● 12/14 ● 3/20														
検討委員会	● 10/17 合同会議 ● 12/21 ● 3/27 合同会議														
教育委員会	● 10/18 ● 10/29 ● 1/10 ● 4/11 ● 方針の決定														
総合教育会議	● 10/18 ● 1/10 ● 4/11 ●														
審議会	● 11/7 諮問 ● 2/13 ● 答申														
議会対応	● 11/2 全協 意見交換会結果説明 ● 全協														
実施計画の策定															
	計画の素案(たたき台)の作成 (教育部内の作業)														

当面（基本方針策定等）の会議等のスケジュール（案）

期 日	会 議 等	内 容
2018 年度 10 月 17 日（水）	庁内検討委員会 （幹事会との合同会議）	・保護者・地域意見交換会の結果報告 ・基本的な進め方について検討 ・基本方針に記載する内容（項目）について検討 ・適正規模適正配置審議会委員の委嘱の考え方について検討
10 月 18 日（木）	教育委員会 定例会	・保護者・地域意見交換会の結果報告 ・基本的な進め方について協議 ・基本方針に記載する内容（項目）について協議 ・適正規模適正配置審議会委員の委嘱の考え方について協議
10 月 18 日（木）	総合教育会議	・保護者・地域意見交換会の結果報告 ・基本的な進め方について協議調整 ・基本方針に記載する内容（項目）について協議調整 ・適正規模適正配置審議会委員の委嘱の考え方について協議調整
10 月 29 日（月）	教育委員会 臨時会	適正規模適正配置審議会委員の委嘱について審議
11 月 2 日（金）	市議会 全員協議会	保護者・地域意見交換会の結果の説明
11 月 7 日（水）	適正規模適正配置審議会（第 1 回会議）	・会長の選出 ・基本方針及び実施計画について諮問 ・適正規模適正配置の趣旨と経緯等の説明 ・アンケートの結果と意見交換会の結果について説明 ・基本的な進め方についての説明 ・基本方針に記載する内容（項目）について説明
12 月 14 日（金）	庁内検討委員会 幹事会	庁内検討委員会での検討案件の調整 ・基本方針(案)について
12 月 21 日（金）	庁内検討委員会	適正規模適正配置審議会への提出案件の検討 ・基本方針(案)について
1 月 10 日（木）	教育委員会 定例会	適正規模適正配置審議会への提出案件の協議 ・基本方針(案)について
1 月 10 日（木）	総合教育会議	適正規模適正配置審議会への提出案件の協議調整 ・基本方針(案)について
2 月 13 日（水）	適正規模適正配置審議会（第 2 回会議）	基本方針(案)について調査審議
3 月 20 日（水）	庁内検討委員会 幹事会	庁内検討委員会での検討案件の調整 ・審議会の意見を踏まえた基本方針(案)の調整
3 月 27 日（水）	庁内検討委員会	適正規模適正配置審議会への提出案件の検討 ・審議会の意見を踏まえた基本方針(案)の検討
2019 年度 4 月 11 日（木）	教育委員会 定例会	適正規模適正配置審議会への提出案件の協議 ・審議会の意見を踏まえた基本方針(案)の協議
4 月 11 日（木）	総合教育会議	適正規模適正配置審議会への提出案件の協議調整 ・審議会の意見を踏まえた基本方針(案)の協議調整
4 月下旬	適正規模適正配置審議会（第 3 回会議）	基本方針(案)について調査審議

期 日	会 議 等	内 容
5月下旬	市議会 全員協議会	基本方針(案)について説明
6月（1ヶ月）	パブリック・コメント	基本方針(案)を公表し意見を募る
7月上旬	庁内検討委員会 （幹事会との合同会議）	・パブリック・コメントへの対応と基本方針の最終案の検討 ・実施計画策定の進め方について検討
7月中旬	教育委員会 定例会	・パブリック・コメントへの対応と基本方針の最終案の協議 ・実施計画策定の進め方について協議
7月中旬	総合教育会議	・パブリック・コメントへの対応と基本方針の最終案の協議調整 ・実施計画策定の進め方について協議調整
7月下旬	適正規模適正配置審議会（第4回会議）	・パブリック・コメントへの対応と基本方針の最終案について調査審議 ・実施計画策定の進め方について説明
7月下旬	答申	適正規模適正配置審議会から基本方針について答申
8月上旬	教育委員会 定例会	基本方針の審議・決定

喜多方市立小中学校適正規模適正配置に関する基本方針 記載項目（案）

1 基本方針の策定にあたって

基本方針策定の趣旨、経過、これまでの取組等について記載する。

2 本市の小中学校の現状

学校数、児童生徒数及び学校規模の現状とこれまでの推移、今後の見通し等について記載する。

3 本市が目指す学校教育と教育環境面での課題

本市が目指す学校教育、本市の小中学校の現状と今後の見通しからの課題を記載する。

4 適正規模適正配置の基本的な考え方

適正規模適正配置の基本的な考え方、地域性の考慮、通学手段への配慮等実施計画作成に向けた基本的な考え方について記載する。

5 適正規模適正配置の進め方

適正規模適正配置推進の手順、方法等を記載する。

喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会委員の委嘱の考え方及び選び方

区 分		人数	委嘱の考え方	選び方
1号委員	学識経験を有する者	1	学校教育や学校の適正規模適正配置について、知識や見識を持つ大学教授等で、原則として任期の2年間継続できる方を委嘱する。	会津若松市の子ども・子育て会議会長であり、同市のこども園の統廃合に関わった経験があり、法学分野に長け、知的財産権等を専門とする会津大学上級准教授の清野正哉氏を候補者とする。
2号委員	小中学校の児童又は生徒の保護者を代表する者	9	小中学校の保護者の中から、旧市町村ごとに次のとおり委嘱する。なお、原則として任期の2年間継続できる方とする。 喜多方4名、熱塩加納1名、塩川2名、山都1名、高郷1名	・喜多方 一小、二小から1名 松山小、上三宮小、二中から1名 三小、関柴小、熊倉小、三中から1名 ・熱塩加納 豊川小、慶徳小、一中から1名 熱塩小、加納小、会北中から1名 ・塩川 堂島小、塩川小、姥堂小、駒形小、塩川中から2名 ・山都 山都小、山都中から1名 ・高郷 高郷小、高郷中から1名
3号委員	小中学校の校長を代表する者	2	小学校と中学校の校長の中から、それぞれ1名を委嘱する。なお、原則として任期の2年間継続できる方とする。	小学校長 1名 中学校長 1名
4号委員	その他教育委員会が適当と認める者	13	① 地域の実情や地域性を考慮した審議を行うため、行政区長の中から、旧市町村ごとに次のとおり9名の方を委嘱する。 喜多方4名、熱塩加納1名、塩川2名、山都1名、高郷1名 ② 未就学児の保護者の意見を反映した審議を行うため、市立こども園の保護者の中から、4名委嘱する。なお、原則として任期の2年間継続できる方とする。	① 行政区長（9名） ・喜多方 喜多方地区行政区長会から1名 松山行政区長会、上三宮行政区長会から1名 岩月行政区長会、関柴行政区長会、熊倉行政区長会から1名 ・熱塩加納 慶徳行政区長会、豊川行政区長会から1名 ・塩川 熱塩加納町行政区長会から1名 ・山都 塩川地区行政区長会、堂島地区行政区長会、姥堂地区行政区長会、駒形地区行政区長会から2名 ・高郷 山都町行政区長会から1名 高郷町行政区長会から1名 ② 未就学児保護者（4名） ・第一・第二・第三・第四こども園から1名 ・すざっここども園から1名 ・堂島・姥堂・駒形こども園から1名 ・山都・高郷こども園から1名
計		25		

喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会条例

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、喜多方市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、本市の教育環境の整備を目的として、喜多方市立の小学校及び中学校(以下「小中学校」という。)の適正な学校規模及び適正な配置に関し、必要な事項を調査審議するため、喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 審議会は、委員25人以内をもって組織する。

(委員)

第3条 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 小中学校の児童及び生徒の保護者を代表する者
- (3) 小中学校の校長を代表する者
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 第1項第2号及び第3号に掲げる者のうちから委嘱し、又は任命された委員は、これらの者でなくなったときは、その職を失うものとする。

(会長)

第4条 審議会に、会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、会長が招集する。ただし、委員の任期満了に伴い新たに組織された審議会の最初に開催される会議は、教育委員会が招集する。

2 会長は、審議会の会議の議長となる。

3 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 審議会は、審議のため必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、教育部において処理する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(会議の招集の特例)

2 この条例の施行後最初に開催される審議会の会議は、第5条第1項本文の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。